

しょうれん 力障連「わ」会 報

http://challenged-catholic.net/ No.96 2022. 7 .19 発行

二〇二二年七月十九日発行（毎週火曜日）AJU一四五九四号

昭和五十四年八月一日 低料第三種郵便物承認 定価一〇〇円

目次

かんとうげん 巻頭言	ながさき コロナからシノドス・長崎へ	しょうれんきょうりよくしさい 力障連協力司祭	はなふさ 英 隆一朗	しんぶ 神父	1
かめいだんたいいけんこうかんかいがいさいがいよう 加盟団体意見交換会開催概要					3
① 加盟団体意見交換会の振り返り	ふくかいちよう 副会長	たなか 田中	みのる 実		5
② 力障連加盟団体意見交換会にズームで参加して	なごきようくしょうがいしゃれんらくかい カトリック名古屋教区障害者連絡会	ひらで 平出	たかし 孝		7
③ 加盟団体意見交換会に参加して	なごきようくしょうがいしゃれんらくかい カトリック名古屋教区障害者連絡会	いりくち 入口	もえ 母絵		7
④ カトリック障害者連絡協議会意見交換会に参加して	きつあん カトリック吃音グループノートケールの会	じむきよくちよう 事務局長	さとう 佐藤	りよう 了	8
⑤ インクルーシブ防災についての分かち合いに参加して	いっばんしゃだんほうしん 一般社団法人	ふくのね ふくのね代表理事	もと 本木	ひとし 仁（仙台教区所属）	9
かめいだんたいかつどうほうこく 加盟団体活動報告					
① ラルシュかなの家活動報告	いえかつどうほうこく かなのすまい管理人者	かんりにんしゃ 横井	よこい 圭介	けいすけ 圭介	10
② 待っています長崎大会	ま えむかえサクラマザーの会	かい 会長	すえなが 末永	さち子 さち子	10
人生のままならなさ	じんせい 前力障連会長	ぜん 宮永	みやなが 久人	ひさと 久人	12
役員会の検討事項と決定事項	やくいんかい 事務局長	けんとうじこ 小池	けいけい まさお	まさお 政男	13

かんとうげん 巻頭言

コロナから シノドス・長崎へ

しょうれんきょうりよくしさい はなふさ りゅういちろう しんぶ
力障連協力司祭 英 隆一朗 神父

イエズス会の英神父です。転勤があり、この春から大阪教区の六甲教会で主任司祭として働き出しました。東京教区の仲間とは離れてしまいましたが、今度は大阪教区の仲間とつながっていきたいです。もちろん全国の仲間とのつながりを大切にしていきたいです。

コロナからシノドスへ

コロナの悪影響が2年以上も続き、特に、障がい者の皆さんは不自由な生活が続いているでしょう。何らかの基礎疾患を持っておられる方は日頃のミサ参加を自粛されたり、外出を制限している方も多いことと思います。コロナ禍によって、障がい者同士のつながりが阻害され、共同体的な交わりがなくなってしまうのは、残念なことです。これからの課題の一つは、バラバラに孤立してしまった状態から、互いのつながりを取り戻していく試みではないかと思っています。

いま しょうだいいひょうしゃかいぎ
今はちょうどシノドス（司教代表者会議）

じゅんび かくきょうく おこな はなし き
の準備を各教区で行っています。話を聞いて
かくきょうく ていど さ こころ
みると、各教区で程度の差はあるものの、心
かたがた あつ いげんこうかん いげん しゅうやく
ある方々が集まって意見交換し、意見を集約
しています。また、これを機会に、ともに歩
きようかい すす きょうん う
む教会づくりを進めようという機運も生まれ
ているところがあります。

きず わたし しゅうふく
コロナで傷ついた私たちが、その修復のため
に、シノドスの道をとともに歩むことはとて
いぎ
も意義あることでしょう。オンラインを活用
して集まりをしておられる方々もおられるで
しょう。ふじゅうぶん
不十分なところがありますが、何も
おも ちいき こ
しないよりはよいと思います。地域を越えて
たいめん あ むづか
対面で会うのが難しいとしても、オンライン
かつよう すこ もさく
を活用しながら、少しずつ模索していきたい
です。

かくきょうく いげんしゅうやく お
各教区の意見集約は終わりつつあります。
しかしながら、シノドスの精神を生きていく
わたし しょう しゃ なかまどうし あつ
のは私たちです。障がい者の仲間同士で集
まって、シノドスのテーマについて話し合い
をしてみるのはどうでしょうか。①自分た
げんじょう
ちの現状はどのようなものか、コロナのこ
と、その前からのこと、きょうかい か
教会の変わっていない
てん かくにん い み
点などを確認することは意味があるでしょ
う。②そこからどういう声を上げていくか、
③自分たちに今、できること、やっていくこ
とはないかなどを話し合ってみるとよいので
はないかと思ひます。シノドスのかいぎ
会議がバチ
おこな
カンで行われることも大事ですが、結局は、
げんば わたし いしき じっせん なに か
現場にいる私たちの意識と実践が何より欠か
せないことです。シノドスを意識しながら、
あゆ
ともに歩んでいきたいです。

しょう しゃ れいせい 障がい者の靈性

なか しんと こうれいか
そのような中で、信徒の高齡化がどんどん

すす いんしょう けんじょうしゃ かた
進んでいる印象があります。健常者の方でも
そうですが、この2年間、ほとんど外出しな
かっただけ、運動不足になって、筋力が弱っ
たため、うんどうぶそく きんりよく よわ
てしまって、家の中で転んだりして骨折して、
そのまからだ ふじゆう
のまま体が不自由になってしまうケースも
ありました。きょうかい く い
教会に来るのが生きがいった
のに、そのチャンスがなくなってしまって、
と にんちしょう すす かた
閉じこもっているうちに認知症が進む方もお
られます。

じょうきょう あらた しょう しゃ
このような状況で、改めて、障がい者の
れいせい
靈性というか、よわ むりよく れいせい ふか
弱さや無力さの靈性を深める
ひつよう
必要があるかもしれせん。さいきん おおさかきょうく
最近、大阪教区
むかし なかま いま ね
の昔からの仲間（今は寝たきりになっている
かた はなし かれ れいせい きょうちゅう
方）と話をしました。彼は靈性を強調していて、
それは確かにそうだと改めて思いました。

ね びょうにん せいじん い かた
寝たきりの病人で聖人のような生き方をさ
れた方も多いいです。ゆうめい ひと
有名な人では、マルタ・
ロバン（フランス人・女性）という方もおら
れます。ね たきりだからせいじん
寝たきりだから聖人になれないとい
うことではなく、ね たきりだからこそ、せいせい
聖性の
みち あゆ ひと
道を歩む人もおられます。そのようなれいせい
なかま みな ふか き も つよ
を仲間の皆さんと深めていきたい気持ちが強
くなってきました。

ながさき シノドスから長崎へ

えいきょう しょうれん ぜんこくたいかい の
コロナの影響で、力障連の全国大会は延び
の
に延びています。今年度の開催の見込みは立
たないようで、らいねんど こ こうさん つよ
来年度にずれ込む公算が強い
ようです。コロナでうけた だげき う け と
シノドスに向けた歩みを始めながら、シノド
スとともに、ながさきたいかい む すこ じゅんび
長崎大会に向けて少しずつ準備
を積み重ねていきたいです。

しぜんさいがい お しょう しゃ
自然災害が起きたとき、障がい者がいかに
い の おお
生き延びるのは大きなテーマです。また、

ウクライナで起きたような戦争はこれからも各地で起こるでしょう。戦争の際、障がい者がいかに戦禍から逃れるかなど、架空の話ではなく、現実的に想定しておく必要があるかもしれません。障がい者の立場からさまざまなことを想定し、備えていきたいです。

社会も教会も大きな課題を背負っています。私たちは障がい者として課題を恵みに変えていけるように心がけていきましょう。

かめいだんたいいけんこうかんかい 加盟団体意見交換会

かいさいがいよう 開催概要

2020年から意見交換会がコロナ禍によって開催することが出来ませんでした。ようやく今年是对面とオンラインのハイブリッド方式で開催することが出来ました。

1 日時：2022年3月20日 13時～16時

2 対面会場：東京真正会館

3 議題1：第13期力障連活動報告

①第13期活動はコロナ禍の中で次回長崎大会が延期されているために第14期に活動が延長している。

②長崎大会は2021年に開催する予定でしたが2023年に延期の方向で準備をしている。

③役員会の開催

2018年から2019年は対面で開催出来ました。2020年からはオンラインで毎月1回開催している。

④研修セミナー

2020年に中西由紀子氏によるテーマ

「障害者差別解消法」、サブテーマ「医療モデルから社会モデルへ、そして福音モデルへ」を予定していましたがコロナ禍で中止となり、講演内容は機関誌「わ」90号（2020.9.1発行）に掲載いたしました。

さらに昨年の12月12日オンラインセミナーにて、テーマ「みんなで助かるための福祉×防災×コミュニティ」と題して（一社）防災コミュニティ協会福祉防災上級コーチ 湯井恵美子氏に講演をお願いし、その内容を機関誌「わ」95号（2022.4.19発行）に掲載致しました。

⑤第13期会計報告と第14期予算（暫定）活動を継続しています。

⑥フランシスコ教皇来日ミサ

当会として事前に司教団と交渉して東京と長崎でのミサに参加し、良かった点や改善点について忌憚なく報告させて頂きました。別紙の通り司教団から、今後の全国大会の障害者への対応については報告書を参考にして開催していきたいと嬉しいメッセージを頂きました。感謝です。

4 議題2：加盟団体活動報告

対面およびオンラインで参加団体や事前に活動報告を頂いた団体名を紹介いたします。

①日本カトリック聴覚障害者の会（日カ聴）

②カトリックさいたま教区障がい者連絡協議会（共愛会）

③東京オーリーブの会

④東京カトリック障がい者連絡会（ヨブの会）

日本カトリック司教協議会
CATHOLIC BISHOPS' CONFERENCE OF JAPAN AmN



T135-8585 東京都江東区潮見二丁目10番10号 日本カトリック
JAPAN CATHOLIC CENTER,
1-10, SHIOMI 2-CHOME, KOTO-KU, TOKYO 135-8585, JAPAN
Key Tel. 03-5632-4411. Fax. 03-5632-4453

p^hQ-p [〒]〇 CBCJL20-32

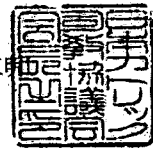
2020年6月4日

日本カトリック障害者連絡協議会

会 長 江戸 徹様

日本カトリック司教協議会

会 長 高見三



フランシスコ教皇来日記念ミサに関する報告書提出御礼

+キリストの平和

紫陽花の美しい季節となりました。

常日頃からカトリック障害者連絡協議会の会長としてのご奉職にご尽力いただき、ありがとうございます。

さて、昨年11月の教皇来日時のミサ準備にあたりましては、カトリック障害者連絡協議会の江戸会長様をはじめとして、役員や会員の皆様に貴重なお時間をいただき、多大なるご協力いただき、ともに教皇様をお迎えできたことを大変嬉しく思いました。また、本年2月25日付書簡にて、教皇来日記念ミサに参加しての日本カトリック障害者連絡協議会からの報告書を、私と大塚司教宛にお送りくださり、ありがとうございました。教皇ミサに参加された皆様からの忌憚のないご意見をまとめていただき、お送りいただきましたことに心より感謝申し上げます。お送りいただいた報告書は、3月の常任司教委員会の際に、委員司教たちに紹介させていただくとともに、常任以外の司教たちにも送付させていただきました。教皇ミサにご参加いただき、ご協力いただいた各団体や皆様からのご意見は大変貴重なもので、今後、全国規模の大会において、とても参考になるまとめとなっておりますので、大切に保管し、折あることに見返しながら、良かったと言っていた点はより一層充実させ、ご指摘いただいた点は反省とともに、今後どのようにしたらよりよくできるかを考えながら、ともに働き、分かち合い、共感する場として全国規模の大会を実施する際に役立てていく所存です。本来でしたら、報告書をいただいた後、すぐに御礼を申し上げねばならないところ、このように御礼が遅くなってしまいましたことを深くお詫び申し上げます。

今後とも、お気づきのことは折に触れてご提言いただき、ともにすべてのいのちを大切にし、守るための働きに尽力して参りましょう。

取り急ぎ、感謝と御礼まで。

祈りのうちに

⑤カトリック名古屋教区障害者連絡会

⑥カ障連大阪フレンドリー

⑦一粒の麦の会・サクラ

⑧カトリック吃音グループノトケールの会

⑨一般社団法人 ふくのね

5 課題3：インクルーシブ防災についての

分かち合い

分かち合いの前に田中副会長が作成したインクルーシブ防災についての下記資料の説明を受けてから分かち合いをおこなった。

資料 インクルーシブ防災へチャレンジ

ひとりも取り残さないために（抜粋）

1 東日本大震災の現場で「あと少し支援があれば」（中村雅彦著より）

①在宅の障害児を持つ高齢者の家庭が多く、判断が遅れて逃げ遅れた事例がいくつもあった。

②自閉症の子供がいることを近所の人を知っていたために支援に駆けつけてくれたので助かった。

③障害者にとっては地域の助け合いが必要だが必ずしもうまくいっているとは思われない。

2 平成30年西日本豪雨災害 倉敷市真備町（「NHKニュースウオッチ9」平成30年10月5日放送）

①知的障害のある親子が地域のつながりもなく、避難したことが無い避難所に行くことが出来ず亡くなってしまった。

3 その他のメッセージ

①災害は忘れたからやってくる。

②備え分だけ、うれしいなし。

③災害が起きた時、障害者や高齢者、子供、妊婦等支援が必要な方々が多く犠牲になっている。

④あなたはどこに逃げますか？→どんな災害で、どこにいて、どのような立場で、備えがどこまでできているか等状況によって対応が変わる。

⑤複合災害（重複して起こる災害）も考えておく必要がある。

⑥災害には、備えたこと、訓練したこと、人はそれ以上の対応は出来ない。

⑦親子や身内、地域で日頃から災害時の連絡方法・避難所や避難方法・集合場所などしっかり話し合っておく必要がある。

加盟団体意見交換会の

振り返り

カ障連 副会長 田中 実

皆さん、お疲れさまです。コロナ禍で様々な忍耐が続いてますね。まだまだ油断禁物です。

3月20日（日）東京真生会館にて久々に加盟団体意見交換会を開催致しました。現地参加とオンライン（Zoom）参加のハイブリッド形式にて開催致しました。加盟団体から多数参加いただき感謝致します。

コロナ禍において感染防止の努力を進める日々が続きますが、オンラインによる集いは社会的にも貴重な機会になって来ました。カ障連でも昨年からはオンラインによる会議や意見交換を進めています。もちろん、ホーム

ページやFacebook、LINEなどの活用も充実
させています。

延期を続けてきたカ障連加盟団体意見交換
会開催準備については、まず、各団体のオ
ンライン活用状況をお聞きし、Zoomによる
交流が可能となる環境づくりをはかりまし
た。

昨年12月にはオンラインによるセミナー
(テーマ・インクルーシブ防災)を開催して
個人の皆さまにも参加いただける状況をつ
くりました。全国から多数参加いただき喜んで
います。

情報保障に関しては、カ障連役員会におい
て、手話通訳と要約筆記対応を確実なもの
とするために多くの方のご意見とご協力をいた
だきました。今は更に改善をはかる努力をし
ています。視覚障害の方への対応はまだ十分
でないため、引き続き話し合っていかなばな
りません。

前置きが長くなりましたが、そのような
経緯をへて加盟団体意見交換会を開催したの
でした。

あらためて意見交換会の大切さを実感した
ことは言うまでもありません。

そして現地参加とオンライン参加での開催
を今後より充実させていくことを考えていま
す。

更には情報保障をしっかりと進めていく、
オンラインを使えない方への配慮を行なうな
ど、他にも多くの課題があります。その上で、
私個人の意見ですが、加盟団体意見交換会も
年に一度でなく可能な限り開催機会を増やせ
たらと考えています。

加盟団体意見交換会を振り返って、カ障連

としての役割を明確にする必要があります。

①加盟団体からのご意見及び情報を、会と
してもっと幅広く分かち合える場づくり

②具体的に議論が出来る課題、障害者差
別解消法対応、合理的配慮の進め方、
情報保障のあり方、各団体の課題共有、
インクルーシブ防災、障害者グループの
育成などを提示する

③会場参加及びオンライン参加(ハイブ
リッド形式)によるスムーズなミーティ
ング運営

何より集って良かった、カ障連に参加して
良かったという思いが育たないといけないと
考えています。

団体に限らず、楽しく気軽に学び合える場
づくりを心がけていきたいと思えます。





しょうれんかめいだんたいいけんこうかんかい
力障連加盟団体意見交換会に
ズームで参加して
 なごきょうくしょうがいしやれんらくかい
 カトリック名古屋教区障害者連絡会
 ひらで たかし
平出 孝

しょうれん ぜんこくきぼ いけんこうかんかい
 力障連の全国規模の意見交換会にズームで
 はあったが参加のお恵みにあずからせて頂き
 かんしゃ
 感謝しております。

ぎょうむじょう つごう ひとでぶそく ぼうとう じかんぐらい
 業務上の都合（人手不足）で冒頭1時間位
 しか参加出来ずとても残念でした。とはいえ
 おお めぐ いただ じぜん しりょう
 多くのお恵みを頂きました。事前に資料を
 おく いただ
 送って頂いておりましたので、目を通しながら
 かいぎ のぞ
 ら会議に臨みました。

わたし はじ いく かめいだんたい
 そこで私は初めて幾つもの加盟団体があ
 り、その加盟団体によって力障連が構成され
 こと し
 ている事を知りました。

なごきょうく しょうれん もくそうかい たんどう
 名古屋教区の力障連で黙想会を担当させて
 いただ わたし しりょう なか め と
 頂いている私が、資料の中で目に止まったの
 かめいだんたい なか もくそうかい きかく かいさい
 は、加盟団体の中に黙想会を企画・開催し
 だんたい こと
 ている団体のある事でした。そのやり方や、
 ないよう
 内容はどんなものなのか、今後何らかの形で

じょうほう え ぜんこくたいかい あ こと
 情報を得ていき、全国大会でお会いする事が
 で き うれ おも
 出来たら嬉しいなと思いました。

かめいだんたいいけんこうかんかい
加盟団体意見交換会に
参加して
 なごきょうくしょうがいしやれんらくかい
 カトリック名古屋教区障害者連絡会
 いりぐち もえ
入口 母絵

たび はじ しょうれん なごや いけんこう
 この度、初めて力障連名古屋として意見交
 かんかい さんか いただ はじ
 換会に参加させて頂きました。初めてのこと
 きんちょう しょうほうきょうゆう たいせい
 で緊張しておりましたが、情報共有の体制が
 しっかりしていたことを、素晴らしいな、と
 おも さんか
 思いながら参加しておりました。パソコンで
 じまく しゅわつうやく もんだい はいけんでき
 の字幕も、手話通訳も、問題なく拝見出来ま
 した。また、マイクを通して、会場に居られ
 とお かいじょう お
 る役員の皆様のお声も良く拝聴することが
 で き
 出来ました。

なに ぜんこく かた かお はいけん あらた
 何より、全国の方の顔が拝見できて、改
 しょうれん そしき おお じっかん
 めて力障連の組織の大きさを実感することが
 できました。会や事業の在り方は様々だけれ
 かい じぎょう あ かた さまざま
 ども、同じ信仰によって結ばれた仲間が全国
 おな しんこう むす なかま ぜんこく
 にこんなにいるんだ、という事を目で見分
 きかい こころつよ
 かる機会であり、たいへん心強くもありました。

こんかい しょうれん なごや みじか かつどうほうこく
 今回は、力障連名古屋として短い活動報告
 をさせて頂き、防災についての私なりの
 いけん の いただ で き
 意見を述べさせて頂くことが出来ました。が、
 こんどみな あ きかい
 今度皆さんとお会いできる機会がありました
 ふか ときどき かだい わ
 ら、より深くその時々課題について分かち
 あ
 合いができたらいいな、と思っております。

きょうかい なか ちい しょうがい もの
 教会の中で小さくされがちな障害をもつ者
 にとつて、教会とはどんな場所であればよい
 たてもの つど ひとひと かんが
 のか、建物だけでなく、そこに集う人々の考
 かた わたし けいはつ
 え方をも私たちは啓発していかなければなり
 めぐ いただ わたし あた
 ません。恵みを頂くだけでなく、私たちが与

えることができたら、生き生きと輝くことができたら、カ障連はより素晴らしい団体になるという気がします。

それぞれの地域の課題を共有していくなかで、一緒になって悩み、考えることを大切に、ご一緒に神の国を目指すことができたら素敵ですね。神に感謝。

カトリック障害者連絡協議会 意見交換会に参加して

カトリック吃音グループノトケールの会
事務局 佐藤 了 助祭

3年ぶりの意見交換会。吃音者のグループ「ノトケールの会」にとって今回が初めての参加であり、会を代表して列席した私自身も、全国カ障連の会合に出るのはこれが最初である。2018年に立ち上げられ、2019年に正式にカ障連に加盟したノトケールの会が、本格的に始動しようとした2020年初頭、世界はコロナ禍に見舞われる。カ障連の年次活動がブロックされ、あわせて私たちのグループもスタートから自粛を余儀なくされたと言える。私自身が、2020年秋にフランスから帰国し、コロナ禍で活動を制限された教会で助祭として説教奉仕しつつ、ようやく、渋谷のドミニコ会修道院に身を落ち着けることができたのは、まさにこの3ヶ月。世界的コロナ禍に取り巻かれた2年間―吃音者グループの発足、私自身のフランスから日本への移動と、東京に落ち着くまでの曲折。カ障連の意見交換会が中止されてきた月日と、自分が経験してきた状況とを、この日重ねて思い直しつつ、再出発を実感した。

単に活動再開というだけではない。コロナ禍を契機として、教会全体に新たな展開・前進が求められることを再認識させられる。

コロナ禍が露わにした世界の姿、そして日本社会のひずみ。ハンディキャップを生きる者たちには、それらはよりいっそう現実的問題となる。それらに対する教会としての向き合い方が問われる。さらに、近年、大規模地震や気候変動による水害によって危機が切迫しているこの国では、まさに、「インクルーシブ防災」についての報告で言われたように、私たちの社会のリアルな交わりをみなお見直すように促されている。そこへ、ウクライナでの戦乱もあわせて考えるならば、疫病、自然災害、紛争などに対処するための連帯という、根源的で一貫した課題も見えてくる。教会におけるハンディキャップを持つ者の交わりというものが、そのすべてに連なる、包括的と言っていいくらいの意義を持ちうるのではないかと。とくに多様性、バリアフリー、暴力・ハラスメントの防止などが模索される中で、世に福音的価値を示すべき教会が、「社会における合理的配慮」を、まず教会自体のなかでどう実現するか。そこには、「自粛警察」という言葉に示されるような、同調圧力による不合理な「配慮」をなかば強制する日本社会の問題も関わってくる。そのような事態にあって、私自身がこの意見交換会で新しい出会いに恵まれ、様々な現実を生きる人たちとのさらに広いつながりへ結ばれたことに感謝しよう。実際に、コロナ禍に対応するためにハイブリッドでの会合を成功させ、新たな可能性を開いた仲間たちを心強く感じる。吃音グループの挑戦と

じぎ おな しょうれん れんたい
時宜をおくして、カ障連メンバーの連帯が
きょうかいがっせいか いちよく にな ねが
教会活性化の一翼を担うことを願いつつ。

インクルーシブ防災について の分かち合いに参加して

いっばんしゃだんほうじん だいひょうりじ
一般社団法人ふくのね代表理事

もとき ひとし せんだいきょうくしよぞく
本木 仁 (仙台教区所属)

ことし がつ か にち ぼうさい
今年3月20日(日)防災についての

いけんこうかいかい さんか
意見交換会に参加させていただきました。

とうかい さくねんにゆうかい
当会には昨年入会いたしました、コロナの

えいぎょう かいいん みなさま こうりゆう
影響により会員の皆様と交流させていただく

きかいはなく、ズームではありましたが初めて

こうりゆう ば おれい もう
交流の場をいただきましたことに御礼を申し

あげます。

こんかい わ あ
今回の分かち合いのテーマでありました

ぼうさい ひがしにほんだいにんさい ひさいち
「防災」については、東日本大震災の被災地

みやぎけん かつどう たちば じんせい
の宮城県で活動している立場としては、人生

のなかで忘れることのできない大きな出来事

であり、またこの教訓を最大限に活かさなけ

れば同じ多くの犠牲者を再び出してしまうと

感じております。

たいけん とうじ げきしん
これまで体験したことのない当時の激震の

きょうふたいけん しつないかぐ とうかい あと
恐怖体験と室内家具などの倒壊、その後の

ていでん だんすい じょうほう ふそく えんがんばん えいぞう
停電、断水や情報の不足により沿岸部の映像

で悲惨な光景を知ることになったのは僅か

10km程度しか離れてない場所でありながら

4～5日経過してからでした。その後続々と

入ってくる情報の中に、津波の影響で知り合

いやその家族の死亡の知らせ、また行方不明

になった多くの方々。2週間ほど経過したこ

ろ沿岸部に状況を確認しに訪れた時は、今で

も忘れられない光景でした。

じゅうたくち がれき やま みなと ふね
住宅地は瓦礫の山となり、港にあった船

が2～3km陸地に流され、地獄絵図を見て
みぶる ち け ひ かんかく いま わす
身震いして血の気が引いた感覚を今も忘れる
ことができません。

へいち さいだい ないち つなみ どうたつ
平地では最大6km内地に津波が到達し、

さんち かが ぼしよ さいだい たか
山地を抱える場所では最大30mの高さ(ピ

ルの8階相当)に到達したと聞いております。

まして津波を間近に目にし、家族が犠牲と

なり、家を失った方々の心中を考えれば、か

ける言葉もありませんでした。

あれから10年以上の月日が流れて、防災

が各地で叫ばれておりますが、逃げ遅れて

津波の犠牲者が多かったことの原因のひとつ

に、地域の間人関係が希薄になっていること

も大きな要因になっているのではないかと感

じています。

ぼうさい ちいき よわ たちば ひなん
防災は、地域のなかで弱い立場で避難に

支援が必要な方々がどのような生活を送って

いるのかが見え、その助けを地域防災計画に

生かすことが必要ではないかと思ひます。ど

こに支援が必要な方が住んでいるか、逃げ

る場所はどこなのか、普段から地域住民の

意思疎通があるかないかでは、いざという

きの事態への対応が大きく変わると思ひま

す。

まして南海トラフの想定されている地域に

は首都圏も含まれており、東北以上に人とひ

との繋がりが希薄な地域もあるのではない

かと思ひます。

きょうかい たいせつ わ あ いまちいき おお
教会で大切な分かち合いが、今地域に大き

く求められていると感じます。

ひがしにほんだいにんさい しょう しゃ ぎせいしゃ けんじょうしゃ
東日本大震災で障がい者の犠牲者が健常者

の2倍であったことも防災計画を進めるうえ

で忘れてはならないと思ひます。

いつ起こるかわからない災害に備えること

ます。音楽活動、聖書の会、笑和会（手芸）クラフトの会など、いろいろなボランティアの会があります。

サクラが困ったときには、すぐに手を差し伸べてくださいます。

必要な時、必要な人が協力して下さいます。これは神さまのお恵みと感じています。

就労している会員は集まりを楽しみにしています。

授産活動は、手作りパンや、ボランティアの皆様が作ってくださるお野菜や柚子胡椒を販売しています。

ある時、2014年献堂間もない佐々教会



えむかえサクラマザーの会 開所式



へ七種神父様、江戸さん、赤波江さんら数名の力障連の方々がおいでになりました。西木場教会へ行かれる途中に寄られた

とのことでした。私たちの10年余りの活動、施設をご覧になられた七種神父様は、「よく

頑張ったね」とお褒めの言葉を下さいました。「佐々教会で主任司祭の小瀬良神父様をもう

少し誉めてあげれば良かった」などとおっしゃってください、神さまからのご褒美だと

思いました。

それから力障連に加盟させていただき8年が過ぎました。2015年札幌大会、2018

年横浜大会へ参加をさせていただきました。私たちの仲間たちとその家族、ボランティア

の皆様と参加させていただき大会開催教区の皆様の犠牲と協力、キリストの愛の実践を肌

で感じ、大きな感動を頂いたことを思い出します。



これからも稲佐教会の小瀬良神父様のご協力、ご指導をいただきながら頑張っています。桜が困ったときには、すぐに手を差し伸べてくださる多くの方々に、弱いものに目を留めてくださる神様の愛に支えられながら、力障連の皆さま方と繋がりながら頑張っていけたら幸いです。今回の長崎大会の成功を祈りながら、ご支援等もよろしく願います。

人生のままならなさ

前力障連会長 宮永 久人

2年前の2月15日、朝起きたら身体がの上なくだるい。頸椎が激しく痛む。トイレへ行こうとベッドから出て立ち上がって5、6歩歩いたところで身体が足から崩れ、うつ伏せに倒れてしまった。20年前から患っていた頸椎がついに損壊したのである。このままでは呼吸が苦しくなると思い、腕で身体を転がし、仰向けに。たまたまヘルパーが来る予定だったが、声を上げて叫んだところで私の危機的状況を察知して部屋に入って来てくれるだろうか……。

しかし、ヘルパーのI君は入ってきてくれた。その頃、彼が来る時間に、あらかじめ鍵を開けて、すぐに入ってもらえるようにしていたのだが、その癖かどうか、たまたま前夜に鍵を掛け忘れていたのだ。

救急搬送され、半年にわたる入院を経て、こうしてここに生きている。電動車椅子の身となり、両手足の痺れがきつい。訪問看護による浣腸・摘便と通院による導尿カテーテル

交換、デイサービスによる入浴の日々である。

けれども特に倒れた日のことは、ヘルパーを利用して自分も準備がよかったとは言え、よりによってこの日になぜ？と考えてしまう。ユング心理学で言うところの「共時性」と言ってしまうえばそれまでだが、何かしら人智を超えたものを感じる。やはり神が私に、まだ生きるように、多くのCP者たちが歩んだ道を歩むように望まれて、生かしてくださったのだと思わざるをえない。

その日々のなかであって、大阪教区の手話通訳・要約筆記グループによるオンライン手話ミサに与ることや、友人たちの来訪にはいつも励まされ、喜びを感じる。

私たちの人生には往々にしてままならないことが起こり、思いがけない出来事に巻きこまれ、ことばを失ってしまう。大阪の精神科クリニック放火事件、京アニ、相模原……。東日本大震災をはじめとする数多くの自然災害、そして古くはアウシュビッツやひろしまながさき広島・長崎、そしてロシアによるウクライナ侵攻など、人類の苦しみの歴史には枚挙にいとまがない。

「主がおっしゃったことは必ず実現すると信じた方は、なんと幸いですよ」（ルカ 1：45）—マリアのエリザベト訪問の結びであるが、のちにエリザベトの子洗礼者ヨハネは獄中で首をはねられ、マリアの子・イエスは十字架刑に処される。「主がおっしゃったこと」=みことば、すなわち「御心」の結末がこのようなものであったとは、エリザベトもマリアも想像だにできなかったであろう

う。「なんと幸いです」ということばと、その後の結末とのコントラスト。いったい御心とはどのような御心なのか。

それでもルカは、マリアがガブリエルからの受胎告知を受けて、「おことばどおり、この身になりますように」（ルカ1：38）ということばで、自分の身に起こることを受諾したことを記し、イエスの生涯の終わりを、「父よ、私の霊を御手に委ねます」（ルカ23：46）ということばで結んでいる。

人生のままならなさ。そのなかにも救いがある。

役員会の検討事項と決定事項

事務局 局長 小池 政男

コロナ禍によって引き続きZoom会議で毎月1回開催しています。

今回は2022年1月から4月までの役員会を報告致します。

2022年第13回Zoom役員会 1 / 11 (火)

- 長崎大会準備状況
長崎教区報の1面に2カ月に1回ペースで力障連関連の記事を掲載している。
(掲載内容は「わ」95号に掲載済み。)
- 長崎大会の延期に伴い全国大会と総会(第14期の役員改選、活動計画、予算のさくていなど)の取り扱いについて検討。次回に引き続き検討することになった。
- 全国の仲間を知る。
全国の小教区の中で障害者の解釈が異なっている。障害者とは手帳を持っている人だけなのか、高齢になり色々な障害

を持っている人、精神障害や難病等になっても手帳をもらえない人もいる。力障連としてはこれらの人を含めて対応していく必要があるのではないかと。

- 機関誌「わ」95号掲載内容について検討。
- 大阪フレンドリーより今度典礼が変わるので点訳版の配布について検討して欲しいと要望を受け、ロゴス、中央協議会に問い合わせることとした。

第14回Zoom役員会 2 / 18 (金)

- 加盟団体意見交換会について
①日時：3 / 20 (日) 13時から16時
②対面場所：東京真正会館
③開催方式：対面とオンラインのハイブリッド方式で開催する。
④当日の役割分担を決める。
⑤早急に案内状を送る。
⑥加盟団体意見交換会の前日3 / 19 (土)に対面とオンラインのハイブリッド方式で役員会を開催する。

- 大会と総会のについては検討。結論まで至らなかった

- 機関誌「わ」96号掲載内容の検討

第15回Zoom役員会 3 / 19 (土)

- 加盟団体意見交換会の前日のため対面とオンラインのハイブリッド方式で開催。
- 加盟団体意見交換会議
課題1 第13期力障連活動報告
課題2 加盟団体活動報告
課題3 インクルーシブ防災についての分かち合いを行う。

2 大会と総会について
長崎大会が2023年春に開催出来るとすれば従来通り大会と総会を一緒に開催する方向で進める事で一致する。

第16回Zoom役員会 4 / 27 (水)

1 加盟団体意見交換会の反省 (意見)

- ①年1回ではなく2回ぐらい開催してコミュニケーションを深めるべきではないか。
- ②今回の開催方式について改善すべき事柄があるので今後改善していきたい。
- ③加盟団体からの意見に対して大いに参考になった。
- ④今後もインクルーシブ防災と障害者差別解消法について議論を深めることが必要。
- ⑤加盟団体の共通の課題について検討していく必要を感じた。
- ⑥開催するためには事前に準備の時間をもっと取る必要があった。
- ⑦会場の音声が聞きにくかったので改良する必要がある。マイクの検討。
- ⑧視覚障害者に対して点字資料を作成し、事前に配布するために必要な期間を確保するためにはもっと早くから検討する必要があった。

2 アンケートから仲間を知る

- ①インクルーシブ防災をベースに加盟団体や各教会、各種団体に意識を高めていく必要があると考える。
- ②障害を持っている人は避難に遅れて命を亡くしてしまう方が多い。またたとえ避難所に行けたとしても一般

の方たちと一緒に避難生活することに対して様々な問題があり、例えば知的障害の方たちや、色々な病を抱えている人、難病の人たちは色々な対応が必要なのにそれが出来ない。そのため同じく避難している周囲の方から苦情が出て居たためなくなり、壊れた自宅や車の中で生活せざるを得なくなり、一か月以内に亡くなる方が多い。

- ③障害者や特殊の病気、難病等を持っている人には各市町村で一般の避難所ではなく福祉避難所を事前に把握しておく必要がある。しかし、市町村によっては福祉避難所がないところもある。たとえばあったとしても人数制限があるので事前に市町村に確認しておく必要がある。
- ④このインクルーシブ防災については役員が所属している教会や団体にも趣旨を伝え具体的な支援体制や連絡方法を検討しておく必要がある。

3 長崎大会準備状況
長崎は今もコロナ感染者が多く、2023年春の開催は難しくなっている。

連絡先及びご入会の申し込み先

事務局：〒466-0037 名古屋市昭和区恵方町2-15
名古屋教区カリタス福祉委員会室内
日本カトリック障害者連絡協議会
Tel：052-852-1426 fax：052-852-1422

郵便局振替口座番号：00100-7-31254
(同封の振込用紙をご利用ください)

会費：年間1口 1,000円
(団体 10口以上 個人 1口以上)

加入者名：日本カトリック障害者連絡協議会